

なきごえ



1979

8

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

卯月 節子



人から聞いた話である。福岡から熊本に引越して来た私の祖母の友人が、福岡でそうしていた様に、飼った犬に肉屋やら魚屋やらを教え、ある日、入用なものを書いた紙とお金をカゴに入れ、肉屋まで買物をたのんだ。しかし

いつまでたっても犬が戻らないので、心配して探したが誰も知らないと言う。犬の身を案じていると、何日かたって、やせてフラフラになった犬が戻って来た。カゴの中には、福岡の肉屋の包み紙に包まれた、もうくさってしまった肉とおつりが入っていたと言う……。何度聞いても胸をうたれ、目頭が熱くなる話である。人間の愛情を信じ切った様な、動物達の曇りのない目と重なって切ないまでに愛しくなってしまう。

末っ子で上と年の離れていた私は、自然にまわりの動物達を友達に選ぶ様になったのだろう、小さな頃から本当に動物が好きだった。犬や猫からニワトリ、アヒル、トカゲや蛇に至るまで、目につくすべての動物達と友達になりたかった。時には噛まれてもしたし、つつかれもしたけれど、その中から、自分のしてはいけない事、たとえば冬眠中のヘビやカエルを起こしたり、むやみに触ったり抱きしめたりする愛情の押し売り、また私の不注意一つで死んでしまう様な無力なものに対する自分の責任、守ってやりたいと思う気持など、誰に教えられなくても学

んでいった。オーバーな言い方かも知れないが、コンクリートジャングルに閉じ込められた今の子供達は、どうやって、その人間に不可欠な感覚を養ってゆくのだろう。私は喜怒哀楽が激しくて、人にやつあたりすることだってあるし、その上ドジでヘマばかりする。それだって心の底では人間が大好きなのである。困っている人があれば、手を差し出さずにはいられないし、自分のした事で人が喜ばばそれだけでうれしい。ダメな私のただ一つの取得である。そしてそれは、私が動物を友に持つ事によって養われてきたものだと思っている。

動物は死ぬから嫌だと言う人がよくいるが、生まれて死ななくてはならないのが、人間を含めた生きもののきまりだし、こわがっているのは愛せない。誰の所に居るよりも幸せである様に、心をこめて愛してやりたいとは言え、私も今はコンクリートの箱の住人、小鳥も飛んで来ないベランダを味けなく見つめながらの毎日である。愛すべき動物と暮らす方が先になるか、愛すべき人を見つける方が先になるかわからないけれど、いつかはここから飛び出して……と夢は大きく持っている。そんな私の今の愛情の対象は、歌であり、歌を聴きに來てくれるお客さんである。私達の歌を聴いて、少しでも幸せな気持ちになってくれれば、それは忙がしい一日の中の最高のよろこびになる。たとえ疲れてはいても。

昔、ひよこの湯たんぽを取り替えなくてはと、眠い目をこすりこすり、夜中に何度も起きたように、今日もまた、ねぼけまなこでたちあがる。

私を待っていてくれるものがあるからこそ、できる生活である。 (歌手：サーカス)

なぎごえ8月号もくじ

動物と私	2
“モウコガゼルの親仔”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
西郊公園の春	6・7
アメリカ西海岸・動物園めぐりの旅 I	8・9
キーパーズ・アイ ⑪	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“フライカワセミ”

メルボルン動物園から去る6月贈られてきたこの鳥は、その名のとおり、人の笑い声に似た鳴き声で入園者の人気を集めています。

(大野 尊信)



“モウコガゼルの親仔”

中国を除けば世界でも当園だけという珍しいモウコガゼルが、6月18日誕生(メス)しました。一昨年の誕生に続きこれが2頭目で、母仔共、経過は順調です。

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“動物の水浴び”

暑い暑い夏がやってきました。クーラーのない夏を動物たちはどうして乗りきっているのでしょうか。

今月は、水浴びする動物たちの様子を御紹介します。
(撮影：野口 秀高・前木 妙子)



オランウータンのさつきちゃんは、担当の係員にプールに入れてもらってごきげんです。



インドゾウも「もっと、お水かけてー」と催促します。



トラも「暑さにはかなわない」と濠へ飛びこみました。



バーバリーシープは岩場の水風呂にとっぷりつかっています。



ホッキョクグマは大暑の日（7月23日）に水をプレゼントされました。



ニホンザルも水のみ場で、バシャバシャと水あそびです。



シュバシコウも噴水のまわりに集まってきます。



ヒグマはプールの中からお客さんを見物しています。

6・7月動物園日記

- 6/26. トラが4頭の赤ちゃんを出産しました。
28. ハナシカが2頭出産しました。
スプリングボックが肺膿瘍で死亡しました。
29. コンゴウインコの寄贈がありました。
オーストラリアのメルボルン動物園よりワライカワセミ1番いとヤブツカヅクリ1番いが入園しました。
7/1. カニクイマングースの右下顎が腫れているのを発見したので、治療して入院させました。

- た。
2. オグロワラビーのメスの左上顎が腫れているので投薬をしました。
3. アビシニアライオンが2頭の赤ちゃんを出産しました。
4. 先月に保護したサシバの餌付けに成功したので展示しました。
7. ピューマが2頭の仔を出産しました。うまく哺乳させています。
ナベヅルが起立不能になったので治療入院させました。

- 7/8. ライオンが3頭の赤ちゃんを出産しました。
9. 昨日誕生したライオンの赤ちゃんは、ミルクをもらっていない様子なので、ひきとって、人工哺育を始めました。
11. レアが8ヶ月目の卵を産卵しました。
13. ダマシカがオスの赤ちゃんを出産しました。母親は、去年にひき続いて、2度目の出産です。
14. キョンが1頭、出産しました。
15. ニホンザルが今年4号の赤ちゃんを産みました。

16. ダマシカの母親が敗血症で死亡したため、仔を人工哺育に切り替えました。
18. チリーフラミンゴが、咬傷で死亡しました。猫によるものと思われます。
ダチョウの食欲がないため、ビタミン剤を投薬しました。
21. 7月8日生まれのライオンが、栄養不良のため死亡したので、残る1頭を人工哺育にすることにしました。
22. 第5回サマースクールが本日より始まりました。

西郊公園の春

上海西郊公園は、上海市の西の郊外、虹橋にあります。この辺りは、樹木は青々としており、鳥のさえずり、花の匂いなど風景はのどかで美しい処です。緑の樹々や花の咲きほこっている間には、色々の珍しい鳥やかわった獣が生息しています。ここに規模の小さい動物園があります。



西郊公園正門

西郊公園は1954年につくられました。現在の広さは70ヘクタールです。園内には我が国特産の珍らしく稀重な動物がいます。例えば姿が美しく、毛並がかわっており、人々が哺乳動物の生きた化石としてほめたたえているパンダや、芳しい容貌、高い鼻、全身長い毛で覆われており、性格が怜利な金絲猿姿が優美で風雅、清潔な丹頂鶴、威風堂々、勇猛なシベリア虎、おぼっこさがこぼれるようなねじり角れいよう、白唇鹿などです。



ターキン

巨大な陸上動物のアジア象や、ちよっとみると兇悪にみえるが大変貴重な揚子江鱶などもあります。この他、世界の一部分の地域にしか住んでいない珍しい動物、例えばアフリカのチンパンジー、キリン、河馬やアメリカ産あしか、野牛、オーストラリアの駝鳥、袋鼠など330余種類、2500頭余りを飼育しています。公園内の木陰はうす暗い程であり、緑の芝生はしとねのようです。咲きほこる花や常緑樹の林は、色々の鳥舎や獣舎をはじめこんでいます。子供向きの形のものもあれば、神話の中の宮殿の形をしたものや、桜閣に似せたもの、あづま屋に似せたもの、きらびやかな宮廷の邸に似せたものなどがあります。又、それは古風で飾り気のないもの、風雅なものなどいろいろな芸術に分類して作ってあるので、それらは公園と一体となって生き生きと映えて

います。

主な動物の建物としては、パンダ嶺、獅虎山、象宮、海獣池、狸々館、金魚廊、鹿苑などです。園内の鳥やけもの類の配置は、動物の進化の順序に配列しています。つまり脊椎動物の下等な魚類、両棲爬虫類より鳥類へと向い、哺乳類、霊長目動物という具合の配列です。それらは公園内の長々とうねっている道に沿って近づけるようになっていきます。

動物生息解説図パネルを置いているのはこの動物園の特徴です。結合部分の動物の生態は、その野生動物が野生で生息している自然の環境にできるだけ合わせて作ってあります。パンダ嶺は前後に緑の竹林、もうこう、藤の棚などを据えつけ、あたかもパンダが四川省の高原の故郷の古い藤の木にのぼったり、竹林に座り込んだりできるようにしてあります。獅虎山は、道がけわしく、溪谷が迂回して続き、黒松が繁って、獅虎山間森林の中を出没できるようになっています。象宮は周囲に棕櫚、芭蕉、いとらなどの亜熱帯植物を植え、あたかも大象が西双地域（雲南省南部にあるタイ族を主とする少数民族自治州）の密林の中に棲息しているようです。白馬湖上の波がきらきらと光り、湖畔の柳や杉木立の間には芦がしげり、湖中には島をつくってあります。いろいろな游禽類が湖畔や沼地の環境の中で生息できるよう構成してあります。ここには調べられない程の沢山のいば鼻白鳥など10数種類の鳥がいます。数百羽の游禽が水中であらそって鳴いたとき羽をたたいておい払えば、彼らは静かになって生息することができます。しかしこれは、北からのお客一野鴨、おしどり、大雁などの避寒の鳥には大変批難されるのですが、——人々が例えていっている鶴は千年の丹頂鶴は禽舎内に小山を作り松を植えてありますが、これなど松鶴は長寿の生きた一幅の画のような構成でしょう！

毎年、おだやかな春を迎えて、大地が新緑におおわれ、万物がすべて生々とし、樹木が新緑となり、草花がほころび、動物が旧来の冬着を脱ぎすてて、美しい衣装に衣がえすると、その性格は大変活動的になります。緑孔雀は、あたたかい太陽の下、五色のはなやかな尾の翼を一杯にひろげて人々にその美しい姿をみせびらかします。姿が瀟洒な丹頂鶴は、時にはのどを引いて高く声を立てたり、時には翩然と舞ったりします。そのうしろ姿の軽快、優美なさまや、首をもたげて鳴き乍ら耳をそばだてたりするさまは、舞踊家、歌手たちでもため息をついて、歩き止まってしまう驚く外はないようです。湖上の游禽の群は或る時は水面を飛び、ある時はふわりと公園の上空をとんだりします。幼ない金絲猿は母猿のふところによりそって、彼女が囁みくだくやわらか

い木の芽を口うつしに食べています。去年生まれた象の子供“依納(イーナ)”は大変ふとってきました。かわいらしくなってきました。彼は母象の“版納(バンナー)”の側にひっついて、細い長い鼻を巻いたり、のぼしたりして、好物の食べ物を食べる練習をしています。又、彼は父象“八莫(パーモ)”に学んで、見物客にみせるために鈴をふったり、音楽を演奏したり、太鼓を打ったりしています。虎は水辺におり、鹿はとび回り、鳥たちは合唱したり……公園は生気にみちあふれています。

特別にいる4頭のかわいいパンダは、国内外の多数の観客を引きつけています。牡パンダの“都都(ドド)”と牝パンダ“白梅(パイメイ)”が並んで座って、真黒な目もとをパチクリしたり、すばしこく巧みに前肢を使って新鮮な竹や葉を、おぼっこい姿でバリバリと味わっているのは、見る人をして笑いに引き込みます。幼い4才のパンダ“青々(チンチン)”は活発ではしゃぎ回っています。ある時は巧みに運動場の大きな樹によじのぼって日光浴を楽しんだり、或る時は地面をころがったり、はったりして見る人をうれしがらせます。新しい狸々館は広く新しく、装飾はきれいです。室外の観覧場ではいつも笑い声やささやきで一杯です。日本の大阪市天王寺動物園から贈られた幼いチンパンジー“だいすけ”と“かんな”は飼育員のいうことをよく聞き分ける



ようになりました。拍手、跳躍、ひっくり返り、逆立綱渡り、歯をみがく、頭髪をくしけずる、ハーモニカを吹く、針に糸を通すなど秀れた演目を演じます。

'74年5月、大阪—上海友好都市提携を祝って大阪市の友好の“使者”として一つがいのあしかが、両市民の友好を記念して贈られてきたので、特に雄のあしかを“海阪(ハイバン)”と名づけました。飼育員の心のこもった飼育で、生長は良好ですすでに子あしか“小海(シャオハイ)”が育っています。そして現在では“海阪(ハイバン)”と“小海(シャオハイ)”はすでにレシーブ、玉受け、飛び込み、ボール投げ、逆立、など多くの華麗な演技を身につけました。そして毎日、観覧者のために、演技をして多くの群衆

の歓迎をうけています。最近では、公園で金絲猿、シベリア虎、火食い鳥、河馬など数十頭の動物が増えてきました。すでに内容は大変豊富になってきました。又、野生動物のために資源保護と研究の条件も整ってきました。公園はすでに上海人民にとってある程度の教育の場や遊覧休息のすぐれた場所となり、毎年、外国人も含めて約400万人の多くの人達をおもてなししています。現在、公園は拡張中であり、逐次完成に及んでいます。

公園の風景は優美で、数百種類、10万株近い喬木や灌木が青々と茂っており、四季の名花が絶えません。春は桜や桃があでやかに競艶し、あつい夏には蓮の花が水辺から涼しげに顔を出し、秋には、もくせいの花が馥郁と咲きほこり、冬には梅の垂れた珠玉であでやかです。曲りくねったり道はめぐりめぐりして独りで中国伝統の特色のあるあづまやや桜閣、廊下のある高台の亭へと導いて、公園の詩情に一層の情緒を添えます。パンダ嶺近くの、新しく開拓した区画に日中友好の森があります。5年前、大阪と上海が友好都市を締結した時に、両市の代表が共に5本の銀杏樹を植えました。今では大変に繁茂しています。私達の間では古くから銀杏樹はすくすくと成長して、日中両国人民の友好関係がたえることなく絶えず発展しているかのように大きくなってきました。5年この方、日本の30数団の訪中団がこの友好の森で友好の樹150本余りを植えてきました。訪中団は又、世界的に名高い日本の桜の木をここへ植えました。毎年4月には錦に似た花を咲かせて、訪ずれる人々をしてうっとり目をそばだたせ、あたかも日中両国民の友好の花のように新鮮であでやかです。

最近、日本の大阪と上海、横浜と上海との間で友好都市提携5周年の慶祝をやりました。そして、大阪市からは友好の使節と、貴重な宝もの一キリンの贈呈がありました。このキリンこそ、西郊公園として本当に賓客にふさわしいもので、正に公園の風物にぴったりのものです。それでキリン館も新装しました。現在いる一頭は26才の年寄りのキリンで、長年の孤独生活に甘んじていましたが、日本からの一対の新しい仲間をみて、共に元気が出て、草地を駆けずり回って喜んでいました。これはどんなにうれしいことでしょうか！彼は正に長い首をのぼして、新しい仲間の到着を首をのぼして待っていたのだもの！

1979年5月21日

上海西郊公園

(編集部注：友好都市上海市より、「西郊公園の春」という原稿を頂きましたので御紹介します。なお、動物名は和名を用いず中国名をそのまま用いました。)

アメリカ西海岸・動物園めぐりの旅 I

はじめに——今年、長年の念願がかない、アメリカの動物園を見学に行く事ができました。見学してきた動物園は、ロスアンジェルス動物園、サンディエゴ動物園、そしてサンフランシスコ動物園の3ヶ所で、それに、サンフランシスコ市内のカリフォルニア科学アカデミー、サンフランシスコの郊外で、野生のラッコが生息しているモンレー等にも行きました。今回より3回にわたって、この紙面で紹介していきたいと思ひます。東京→ロスアンジェルス

§ ロスアンジェルス動物園

6月15日の夜、成田空港を一路パンナム航空のジャンボ機で、ロスアンジェルスへと向かいました。そして6月15日の昼すぎにロスアンジェルス空港に着き、アメリカの大地を感激の思いをおさえつつふみしめました。そして、16日の朝ロスアンジェルス動物園を訪問しました。まず正面の横にある案内所



美しい花の咲きみだれる正門

で、長瀬獣医がお世話になったキーパーの Burnes 氏を呼んでもらい、そして Burnes 氏の案内でキーパーの事務所に行きました。そこで Burnes さんと同室の Tom さんを紹介され、3人で少しお話しをした後 Burnes さんのトラックに乗せてもらい、園内の見学に行きました。園内に行く途中、繁殖センターに立ちよりました。繁殖センターでは、数人の女性キーパーが働いており、アカウアカリやゴールデンライオンタマリン、数種類のタマリンが飼育さ



女性キーパーによくなれている繁殖センターのウアカリれていました。ここで私は人工哺乳中のフィッシャーテンの赤ちゃん、クチヒゲタマリンの赤ちゃんをさわらせてもらい感激！しました。この繁殖センターでは他にカナダツルやヒクイドリなども飼育されていました。この繁殖センターの建物は、そんなに立派な建物ではありませんでしたが、ここで飼育繁殖している動物はとて素晴らしいものばかりでした。そして、繁殖センターを後に、Burnes さんのトラックで園内へと向かいました。助手席からながめる園内は、まだ日本では写真でしか見る事ので

きない珍しい動物達が、次から次へと私の目にとびこんでくるので、興奮のあまり、はやる心をおさえきれないまま私は、カメラのシャッターを切ったり、8ミリの撮影機をまわしたりしました。あまりのハッスルぶりに、ハンドルをにぎっている Burnes さんも、あっけにとられたのか、私の熱意に感心されたのか、トラックのスピードをゆるめ、私が動物の写真をうまく撮れる様にと、気を配って下さいました。やがてアフリカセクションの所で車を止め、動物をじっくりと見学する事になりました。この動物園の特色は、地理学的展示で動物を展示してあり、広い園内をアフリカ区、ユーラシア区、北アメリカ区、南アメリカ区、オーストラリア区とに区分しています。又、他区との境には分類学的展示もうまくとり入れてあり、例えばユーラシア区と南アメリカ区との境に、アジアに生息するマレーバクと中南米に生息するヤマバクとチュベイクが展示されているといったぐあいに、地理学的展示と分類学的展示をうまくアレンジしているのには感心しました。アフリカ区で飼育されているのは、アラビアオリックス「なをな〜んと17頭もいるではないか！」クリプスプリンガー、ゲレヌク等々……日本では見られ



よく繁殖しているジェレヌク

ない珍しいレイヨウ類、又、ブロック別動物舎の中にはゼブラダイカー、エリマキキツネザル、ジャコ



うっそうと茂る木の中から出てきたゼブラダイカーウアンテロープ等の小動物が飼育されていて、エリマキキツネザル等は繁殖までして、可愛い赤ちゃんが2頭、愛らしい仕草で入園者の人気を集めていました。それから驚いた事には、クリプスプリンガー舎の中にオオミギツネが2頭飼育されていました。Burnes さんに、だいじょうぶですか？とたずねると、うまく同居しているとの事でした。その次にボンゴ舎に向かいました。そしてこのボンゴ舎を見て私はあ然！としました。日本では上野動物園にオスが1頭だけ飼育されているあの美しい！ボンゴが、団体さんでいるのです。ここでも私は愛

機のカメラでめまぐるしく、ライフル銃の様に(ちょっとオーバーだが)シャッターを切りました。このボンゴはこの動物園の自慢の1つだそうで子供も



うらやましいかぎりのボンゴ達

よく産まれると聞き、よだれが(ちょっときたないかなあ)でそうになりました。

木の上でねそべっていたマヌルネコ

ユーラシア区でも珍しい動物がたくさんいました。マーコールの群、アノア、モウコノウマ、オナガ等の草食獣、インドライオン、シベリアトラ等の大



ナイルリーチェ 美しいアフリカのレイヨウ

型肉食獣。そして小型の肉食獣も豊富にいました。木の上で昼寝を楽しんでいるマヌルネコ(学名札にはパリスキャットと書いてあった)そこで、Burnes さんは素晴らしい物を見せてあげようと、私をマープルドキャット舎の寢室に連れていってくれました。足音をしのばせながら私たちは寢室の中に入り、そこから運動場の植込みの所をしばらく見つめていました。しばらくして彼は、「ほら、赤ちゃんがいるだろう」と指さしました。たしかに植込みの中からは動くものがあり、目をこらして見るとマープルドキャットの子供の姿が見えました。私は次にカメラを構えシャッターを切ろうとしたのですが、残念な事に子供はまた植込の奥深くへとかくれてしまったのです。それを見た Burnes さんは、「残念だったね」といってくれました。

青空をバックにカリフォルニアコンドルが!

次に北アメリカ区、南アメリカ区、オーストラリア区と見学していきました。見ている間に気が付いた事ですが、どのセクションの動物舎も、動物舎の中に樹木がうっそうと茂っていて、注意していないと、どこに動物がいるのかわからないくらいです。でもアメリカの入園者の人々は、動物が見えなくても別におこる様子もなく通りすぎて行きます。(日本だったら、「動物が見られへんやんか」とおしかりのことばの一つもあるのになあ)やはり国民性の違いかとうらやましい限りでした。最後に Burnes さん

が、特別に見たい動物があるかといわれたので、私はぜひカリフォルニアコンドルが見たいですという、Burnes さんはニコリ笑って私をカリフォルニアコンドルのいるケージに連れていってくれました。カリフォルニアコンドルは、今や絶滅に瀕しているコンドルの仲間、野生以外で見ることが出来るのはこのロスアンジェルス動物園だけなのです。だからこの動物園でもとてもたいせつに飼育しています。昨年建った新しいケージの中でカリフォルニアコンドルが1羽、青空をバックに大きな翼をひろげていました。その姿は一生忘れる事のできない程印象的なものでした。驚きと感激の1日はアツという間にすぎさり、アメリカの動物園での初日は終わってしまいました。5日間のロスアンジェルス滞在中の最後の日にもう一度この動物園を訪れようと私は心に決めました。2度目のロスアンジェルス動物園も朝からすばらしい天気、私は胸をときめかしながら動物園の門をくぐりました。今日はじっくりと動物を見ようと、歩いて私は園内をまわりました。ジェレヌク舎の前では1時間もねばって、ジェレヌクが立ち上がり採食する姿を写真に撮ろうとしたり、可愛らしいアラビアオリックスの赤ちゃんを見たり、ヘアリング中のサルクイワシやオオギワシ等



1時間ねばってやっと写せたジェレヌクの優美な姿！を見たり、とつてもゆったりした気分で1日を過ごしました。そして夕方の7時すぎ頃ブロングホーン舎の前を通りかかると、産まれたばかりの赤ちゃん



ロスアンジェルス最後の日に産まれたブロングホーンの赤ちゃん、元気に育てと祈らずにはいられなかった。の様子を目を細めながら観察している獣医さんとキーパーがいました。ロスアンジェルス滞在中の最後に産まれた赤ちゃんが無事育つ事を願って、私はこのすばらしい動物園を後にしました。

つづく

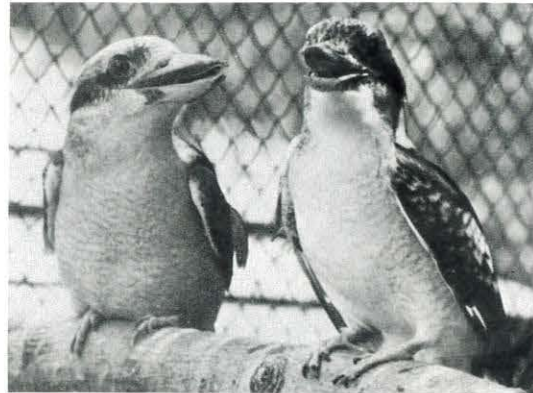
(次回はサンディエゴ動物園)

(飼育課：農本 武志)

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑪

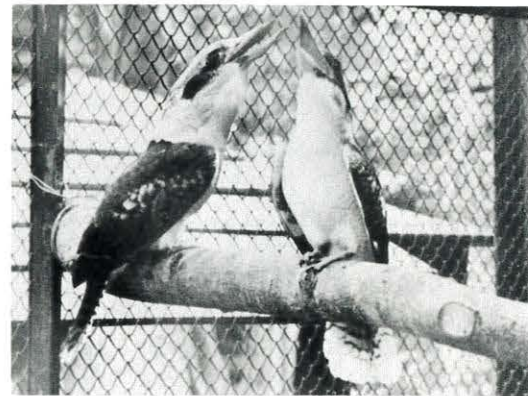
《鳴笑》

私は、6月はるばるオーストラリアからやって来たワライカワセミです。人間の笑い方が、私の鳴き声に似ているから、皆、私のことを奇妙な声で鳴く変な鳥なんて云うけど、私は、美声だと思っています。動物園に来て、毎日私のケージの前で、人間が奇妙な声を出して笑っています。でも、私はそんなのにつられて鳴きません。元来、私は朝と夕方きまった時間に鳴くのです。



動物園では、私の鳴き声を聞きに来てくれる人達の為に、時々笑うのです。ちがった、鳴くのです。人間達は、ケージの前で、私に向かって色々な事を云います。「なんや、この鳥笑わへんやないか、いつ笑いよんねん」「ヘラヘラ、ゲラゲラ早よ笑え、笑わへんわ、もうよそへ行こ」そう簡単に笑いません。でも、なかよくしてください。

(飼育課：野口 秀高)



《道化者》

僕は、道化者のマレーグマです。立ったり、座ったりは朝めし前です。お客さんからお菓子をねだるのは、動物園では僕が一番です。立ち上って両手を上げ、片方の手でおいでおいでをすると、たいていのお客さんはお菓子をくれます。今度は寝っころがって、両手両足を広げ手をふれば、又々、お菓子が飛んで来ます。それを口で上手に受ける所が、非常にむつかしいのですが、今はバッチリとキャッチします。そんな時、手をたたいてくれるお客さんがいると、僕はますます嬉しくなっておどけてみせます。

この頃は暑いので、僕の道化ぶりを見てくれるお客さんが少ないのが、残念です。今後、ますます人気者になり、お客さんを笑いの中へさそいたいと思いますので、よろしく。

でも、あまり菓子をなげないでください。つい食べすぎておなかをこわして注射されるのは、きらいですから。

(飼育課：野口 秀高)



動物園ニュース

★ 猛獣類、続々誕生

6月26日、ベンガルトラが4頭生まれました。母親はこれが5度目の出産ですが、過去いずれも仔を



うまく育てることがなく人工哺育に頼っており、今回も人工哺育の準備はしていますが、今のところ

順調に育て

ています。7月3日にはアビシニアライオンが2頭生まれました。母親は昭和45年の万国博覧会の際、エチオピア政府から贈られたもので、これが8度目のおめでたです。赤ちゃんは2頭共すこぶる元気に育っています。

7月8日には放飼場にいるライオンが出産しました。まだ3才前の若いライオンで、今回が2度目の出産です。初産の時も仔をうまく育てられなかったのですが、今回も生まれた3頭の内、2頭が死亡したため、7



月21日から

残る1頭(オ

ス)も大き

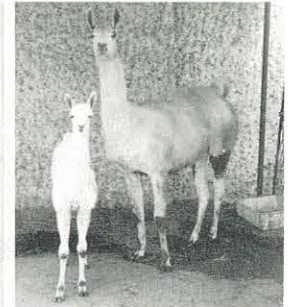
ふ化させる珍しいキジのなかまです。なお、当園からはハナジロゲノンという珍しいサル(オス2、メス1)を6月27日に贈りました。

★ カモシカ園、出産ラッシュ

先月号でモウコガゼル、ブラックバック、ハナシカの誕生をお知らせしましたが、ハナシカはその後出産が相つぎ、7月9日には8頭目の赤ちゃんが誕生し、カモシカ園はまさにベビーラッシュの波がおしよせています。

★ ラマの誕生

6月21日、ラマが1頭(メス)生まれました。母親は昭和52年11月に当園で生まれたマリー



で、2才にもならない内の出産でしたので、係員も予想もしていなかった誕生です。母仔共元気で、一安心です。

★ ダマシカの人工哺育

7月13日にダマシカ(白色種)が生まれましたが、母親が産後の経過が悪く死亡したため、7月16日から人工哺育で育てています。生後1週間目の現在、ミルクを1日に1300ccも飲み、体重も順調に増えて

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111 ・ 上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・ 近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑪

《鳴笑》

私は、6月はるばるオーストラリアからやって来たワライカワセミです。人間の笑い方が、私の鳴き声に似ているから、皆、私のことを奇妙な声で鳴く変な鳥なんて云うけど、私は、美声だと思っています。動物園に来て、毎日私のケージの前で、人間が奇妙な声を出して笑っています。でも、私はそんなのにつられて鳴きません。元来、私は朝と夕方きまった時間に鳴くのです。

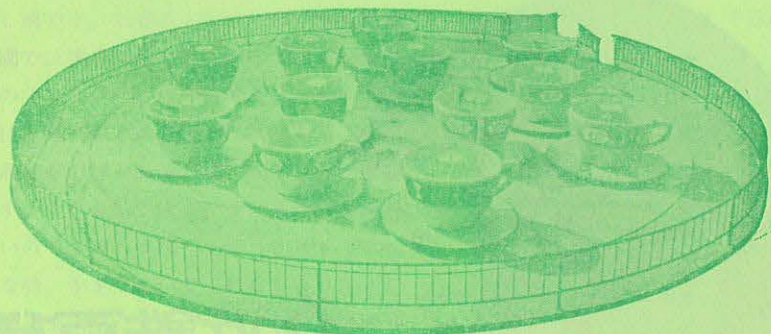


動物園では、私の鳴き声を聞きに来てくれる人達の為に、時々笑うのです。ちがった、鳴くのです。人間達は、ケージの前で、私に向かって色々な事を云います。「なんや、この鳥笑わへんやないか、いつ笑いよんねん」「へらへら、ゲラゲラ早よ笑え、笑わへんわ、もうよそへ行こ」そう簡単に笑いませぬ。でも、なかよくしてください。

(飼育課：野口 秀高)



遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

動物園ニュース

★ 猛獣類、続々誕生

6月26日、ベンガルトラが4頭生まれました。母親はこれが5度目の出産ですが、過去いずれも仔を



うまく育てることがなく人工哺育に頼っており、今回も人工哺育の準備はしていますが、今のところ順調に育て

ています。

7月3日にはアビシニアライオンが2頭生まれました。母親は昭和45年の万国博覧会の際、エチオピア政府から贈られたもので、これが8度目のおめでたです。赤ちゃんは2頭共すこぶる元気に育っています。

7月8日には放飼場にいるライオンが産しました。まだ3才前の若いライオンで、今回が2度目の出産です。初産の時も仔をうまく育てられなかったのですが、今回も生まれた3頭の内、2頭が死亡したため、7月21日から残る1頭(オス)を人工哺育で育てています。



母親はまだ若すぎるため、育児経験不足と母乳が少いのが原因のようです。人工哺育のライオンはトミーと名付けられ、係員の世話のもとで順調に育っています。

7月7日にはピューマが誕生しました。母親は昭和46年に当園で生まれたもので、今回は5度目の出産です。赤ちゃんは2頭で母親がじょうずに世話をしています。

7月7日にはピューマが誕生しました。母親は昭和46年に当園で生まれたもので、今回は5度目の出産です。赤ちゃんは2頭で母親がじょうずに世話をしています。

★ メルボルン動物園と親善動物交換

昨年4月にオーストラリア・メルボルン市と大阪市が姉妹都市を提携しましたが、その際、両市の友好親善をはかるため動物交換を行うことになり、6月29日、メルボルン動物園からワライカワセミとヤブツカヅクリ各1番いが贈られてきました。ワライカワセミはその名のとおり、大きな声で笑うように鳴き、早くも入園者の人気を集めています。ヤブツカヅクリは



日本の動物園では初めてのお目見えで、高さ1m以上の巣を築きあげてその中に産卵して

ふ化させる珍しいキジのなかまです。なお、当園からはハナジロゲノンという珍しいサル(オス2、メス1)を6月27日に贈りました。

★ カモシカ園、出産ラッシュ

先月号でモウコガゼル、ブラックバック、ハナシカの誕生をお知らせしましたが、ハナシカはその後も出産が相つぎ、7月9日には8頭目の赤ちゃんが誕生し、カモシカ園はまさにベビーラッシュの波がおしよせています。

★ ラマの誕生

6月21日、ラマが1頭(メス)生まれました。母親は昭和52年11月に当園で生まれたマリー



で、2才にもならない内の出産でしたので、係員も予想もしていなかった誕生です。母仔共元気で、一安心です。

★ ダマシカの人工哺育

7月13日にダマシカ(白色種)が生まれましたが、母親が産後の経過が悪く死亡したため、7月16日から人工哺育で育てています。生後1週間目の現在、ミルクを1日に1300ccも飲み、体重も順調に増えています。

★ 定例第7回飼育研究会

7月13日、定例飼育研究会が開かれ、去る5月末に上海にキリンを輸送した経過と中国の動物園の現状をスライドと8%映写で、宮下獣医と野口係員から報告がありました。

第5回天王寺動物園サマースクール開講

7月22日～8月1日まで、小学生4～6年生を対象としたサマースクールが開講されました。定員240名のところ1000名近い応募者があり、抽選により参加者を決定しました。第1～2日目は天王寺動物園で、動物の観察や飼育の勉強などをして、第3日目は、大阪市立自然史博物館で動物の骨格を調べたりしました。また、このサマースクールのお手伝いに



約90名のボランティアの方々が参加されて、引卒、指導など幅広く協力していただきました。

◎お知らせ◎

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。11月までの休園日は下記の通りです。

8月20日、9月17日、10月15日、11月19日
開園時間は9時半～5時で、4時半に切符売止めになります。

なきごえ 昭和54年 8月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

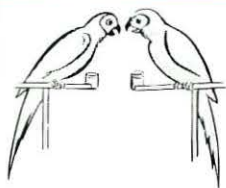
第15巻第8号(通巻168号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

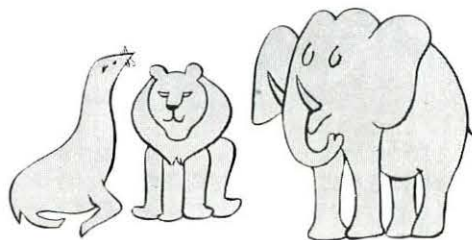
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登